

**兵庫県県民生活審議会**  
**第1回参画・協働推進委員会 議事要旨**

- 1 日 時 平成26年7月15日(火) 14:00～15:30
- 2 場 所 県民会館7階 ばらの間
- 3 参加者 委員：小西委員長、北野委員、野崎委員、山下委員  
県側：柳瀬県民生活局長、洲上県民生活課長、  
久戸瀬県民生活課副課長、小島主幹(ふるさと推進担当)、  
木村協働推進室長、木村NPO・ボランティア活動支援班長、  
ほか関係職員

4 議 事 「平成25年度 参画と協働関連施策の年次報告(案)」について

5 主な内容

【「平成25年度 参画と協働関連施策の年次報告(案)」について】

〔昨年度からの変更点〕

- \*今年とは昨年と比べて何を変えたのか、少し説明していただきたい。
- \*昨年は、県民局毎のプロジェクトを中心に紹介した。今年は、県民と県民のパートナーシップについては、県民主体のふるさとづくりに向けての取組を県が支援しているものを紹介している。もう一つの県行政への参画と協働については、県行政へ参画をする様々なツールに焦点を当て、状況報告している。昨年は地域を満遍なく紹介したが、今年はプロジェクトにかかわらず、様々な地域での取組と、それから県が推進した参画と協働の取組について報告している。(事務局)
- \*目次を見ていただくと、Ⅱ1では、昨年は「地域づくり活動の支援」だが、今年は「ふるさとづくり活動の支援」という形で、ふるさとづくりを全面に出している。ふるさと事業推進本部から出ているふるさとづくりの推進に沿った形で、「育ちの中でのふるさと体験」「暮らしの中でのふるさとづくりと交流」「ふるさと・ひょうごへの想い」という3つのテーマに分けて、それぞれやっていることを書いている。
- \*近年5年間の間に、状況は一変している。都市がなべて高齢化してきている。そこに、震災直後のあの時代のイメージを持ってきても、無理があるのではないか。例えば、都市にしても空き家が多い。独居老人をはじめ、一人住まいの人も多い。老夫婦の2人暮らしも多い。嫌な例ばかりを申し上げるようだが、実際そういう傾向はこれからどんどん大きくなると思う。だからこの審議会も、それを踏まえてこれから先のことを考えていかないといけないのではないか。65歳が70歳になると、70歳が75歳になると、75歳が80歳になるのは大違いだ。70歳以上の人が非常に多くなってきている。その社会に対して審議会でもどう議論するのかを最初に考えないといけないと思う。
- \*県生審で議論されている中身が、少しずつ変わり、展開されてきているのに合わせて、目次の立て方も変えてある。震災を経験されてきた方は、おっしゃるように徐々に歳を

重ねてきているが、体験していない人たちにどう継承していくかということも含めて、一緒に考えるべきという提案をいただいた。しかし、今年は昨年までと異なり、年次報告を発行する時期が早い。以前は9月、10月という時期だったが、今年は、昨年実施したことに焦点を置いて話ができる。ただ、今年については震災20年という素材があるから、それについて予め分かっているような事業については、書くほうがよいのではないか。そういった形で震災との関わりを再確認していただいて、その中から参画や協働といったことが具体的な形で展開してきているということかと思う。

\*これから先のことについて、心配になってくることを書くべきではないか。ここまではこうだったが、ここから先はこうなるであろうという展望を書くべきだ。

### 〔「地域づくり」と「ふるさとづくり」〕

\*「地域づくり活動」というタイトルを「ふるさとづくり活動」に変えるということだが、「地域づくり」というのは条例上の用語だったのではないか。今年から「ふるさとづくり」に変えていいのか。これまで「地域づくり活動」という言葉を使っており、この年次報告も作ってきた。

\*紹介する柱立ては、県が進めているふるさとづくり活動である。（事務局）

\*それは県の整理である。例えば1ページのほうは「地域づくり活動」である。どういふふうな考え方でこれまでの「地域づくり活動」を「ふるさとづくり活動」に言い換えるようにしたのか説明が要る。

\*条例上の言葉だと「地域づくり活動」となる。（事務局）

\*ご指摘のあった通り、「地域づくり」というのは文言としてある。「地域づくり」で別に悪くはないが、ふるさと事業推進本部ができて、今年は昨年より「ふるさとづくり」の取組が進んでいる。そこでこういう形にして、県民同士のパートナーシップの形をよりはっきりさせたいという意図があった。従って、ご指摘に沿った形で、この意図を含めて少し文言を考えていただきたい。

\*年次報告なので、条例に基づいた形で報告する。ご指摘があったように、正式なタイトルは「地域づくり活動」である。そのうち今回は「ふるさとづくり」に関連する事業を報告しているので、サブタイトル的に「ふるさとづくり活動」を入れる。（事務局）

\*1ページで、566施策を実施しているとある。ここで「地域づくり活動の支援に関する施策」として、「生み、育む」「高め、支える」「つなぎ、広げる」といろいろ出ているが、それと2ページ以下がうまくつながらない。

\*「新たな活動を生み、育む」というふるさと体験の事業もあれば、軸がまた別のものもある。（事務局）

\*今年柱を変えたから、「地域づくり」と「ふるさとづくり」が合わないのだと思う。県としてはふるさとづくりに取り組んでいる。それは地域づくりともほぼ重なるので、ふるさとづくりを推進していくという説明をしないといけない。

\*2ページ目の頭の柱書きのところに、その3本柱の説明をさせていただく。（事務局）

\*それはお願いしたい。それから、「ふるさとづくり」というのはしばらく続くのか。来

年の年次報告を作る時に、また全然違うものにならないか。

\*まだ、推進本部ができたところである。（事務局）

\*地域づくりについては、これまで続けてやってきたものだから、この3本の柱というのはよく知っている。しかし、ふるさとづくりに関する3つの柱というのは、ふるさと事業推進本部がとりまとめたものだから、まだ新しい。知らない方がたくさんいる気がする。そういう意味で、ちゃんと合うような形にさせていただくのがいいと思う。これまでよりクリアになった一方で、これだとお互いの車道がはっきりしていないことは事実だ。

### 〔具体的な事業例について〕

\*取組例は書かないといけないのか。例を見て、これを良しとする人と良しとしない人がいると思う。

\*そう言われると、どれを選択すればいいのか非常に難しい話になる。

\*3ページの事例など、資料を見た人で何か言う人がいるかもしれない。名前を入れるのは難しい。

\*これまでも施策を担当している部局に照会して、掲載している。ここは県が支援をしている事業について、その支援を担当している課から紹介してもらっている。（事務局）

\*一目見て、皆が納得するようにしないといけない。余計なことは書かないほうがよい。

\*そういう話になるとちょっと難しいが、いずれにしても例と書いてあるものだから、これが唯一ではなく、これを推薦しているわけでもない。いくつもある中でたまたまこういうものを例として挙げている。

\*これは年次報告でもあるが、かつて作っていた年次報告は味もそっけもなかったので、しばらく前から、地域づくりを頑張っておられる県民の方々に読んでもらう方針とした。その参考になるような情報を入れようということだから、例えばこういう事業をやっていてこういう取組例がある、というのがないと読む人にとってはイメージが湧かないし参考にもならない。取り上げる例が適切かというのは注意が要ると思うが、そういうものがあつたほうが県民の方が読んで参考になるのではないか。

\*参考にはならないのではないか。反対の場合は、逆に非常に大きな反論がある。

\*我々もそこは気をつけているし、各担当課もそういうことがないように気を遣っていると考えている。（事務局）

\*こうした例も、昔は法律の判例のような形で増やしていったらとイメージしていたが、予算の問題等でできなくなった。それで、ある地域を一つずつ考えてみて、分野についてもできるだけ重ならないように紹介するようにした。こんな取組をやっているという事例を紹介することで、紹介されたほうも活性化されるかもしれないし、「やってみよう」という気になるかもしれない。ただ、おっしゃるように、反発が出てくる可能性もある。プラスマイナスを考えたらどちらがよいか分からないが、継続的にやることによってプラスになってもらえないかなと思う。

\*私たちの所では、子どもたちの見守りを続けている。それが既に10年も経っている。その間、3年目、4年目、5年目になって周りの皆も実施し始めた。そうすると、ここだ

けでやっているわけではないじゃないかということになってくる。

- \*長く続けていると、世代も変わるし、中身も変わってくる。様々な考えがあると思うが、問題が起こりうるということを斟酌しながら、プラスとマイナスを考えてみたら、長期的にやるとプラスが大きいのではないかと期待して書かせていただいている。

#### 〔社会基盤整備基本計画について〕

- \* 6 ページの最後の 2 行で、「今後は県民に分かりやすい情報発信を進めていきます」とあるが、これはどういう意味なのか。社会基盤整備基本計画がこういう形でできた、という意味ではないのか。今後があるのか。
- \* 元々、社会基盤整備基本計画というものがあり、それは 10 年計画だが 5 年で見直した。見直した結果、新しい改訂版がここまでできた。ここから先はまた 5 年くらいで見直す可能性はあるということだ。
- \* それに加えてもう一つは、基本計画のもとでその具体的なプログラムを作るという作業だ。具体的な路線や河川の名前を入れて整備するものを特定させる社会基盤整備プログラムという形での整理を、いま行っているという状況だ。（事務局）
- \* 「県行政への参画と協働を進めていきます」ではなく、「県民の県行政への参画と協働に基づいて、〇〇をしていきます」と書くべきではないか。参画と協働を進めるのではなく、参画と協働に基づいて、とか、参画と協働でこういうことを行う、ということを書いてほしい。

#### 〔公募委員アンケートについて〕

- \* 7 ページの上のところで、「会議運営を工夫することが求められています」とあるが、この言い方に違和感がある。会議運営を工夫するのは県がすることではないか。「求められています」ではなく「工夫します」とか、そういう書き方をすべきではないか。これは県の県民に対する報告なので、県としてこういうことをしている、こういう意見を受けてこうする、と書くべきだ。
- \* 「県が」求められていると読めばいいのではないか。別におかしくはない。
- \* 県が県民に対して出しているペーパーだから、その意味では、「県は」が主語になるのではないか。
- \* 能動で書くか受動で書くかという議論で、能動で書くべきではないかというご指摘だと思う。（事務局）
- \* 受動で書くのは違和感がある。
- \* そこは表現を改める。「工夫する必要があります」や、「工夫します」という意志の形で整理したい。（事務局）

#### 〔トピックス「阪神淡路 20 年」について〕

- \* トピックスのところだが、1 がこれまでの歴史、2 が今年の事業予定だけである。それでいいのか。2 では「阪神淡路 20 年に向けた取組」と書いてあるが、この前提として、

何を実施してきて、20年を迎えて、どういう気持ちだからこうした「伝える」「備える」「活かす」といった取組をしようと思っている、という思いを書いたほうがいいのか。個別の事業紹介より、復興の中でこんなことをやってきて20年を迎えて、県としては20年間を振り返りながら先のことを考えて、節目としてこういうことを行う、という整理がいいと思う。

- \* 高齢社会に向けて、10年前あるいは5年前と、これから先の5年先は違うということを書いておかないといけない。あれもした、これもした、それでここまで来た、それは確かに偉かったと思う。震災であんなにひどくなった所がこんなに綺麗なまちになったというのは素晴らしいことだと思うが、それがここ2、3年の間に新しい家でさえ空き家になるかもしれない。そういう状況があるので、やっぱり危惧したことも書いておかななくてはならないと思う。
- \* 来年1月17日に限らず、もう少し先も含めて様々な事業を募集している。具体的に決まっているのもあるし、まだ募集段階というのもあると聞いている。おっしゃることが非常に重要な問いだということも分かるが、あまり具体的なことは今の段階では書けないから、テーマを絞っている。
- \* 20年に向けた取組のところは、「伝える」「備える」「活かす」が当然の柱のようになっており、なぜその3つなのか分からないので、先ほどご指摘を受けた形に書き換える。今後のところがどこまで書けるかというのは、我々としても心許ないところがまだあるが、危機感というのは皆が持っている。(事務局)
- \* 具体的に、こうします、ああしなければならぬ、ではなくて、こういうふうな状況になるだろうから、その時に備えて対策を考えるべきだというニュアンスのことを書いてほしいと思う。

### 〔県民交流広場について〕

- \* 16ページの県民交流広場の実施地区へのアンケートについて、意見をここでまとめているが、県民交流広場事業についての説明が必要だ。この事業を県民はあまり知らない。県民交流広場はこういうものでこういうことをやってきたが、実施地区に対してこういうアンケートをしたという説明がないと、多分読んでも分からないと思う。
- \* 多くの人知らないだろうと思うのは事実としてあるのかもしれないが、これまでも様々なところで広報している。いつまで経っても知らない、でいいのか。
- \* 皆が知っていてこそ、成功した事業と言える。
- \* 私の所でも、ふれあいのまちづくり協議会で建物を改修したが、改修したこと自体は皆知っている。しかし大半の人は、「何かお金が出て改修したのだな」という認識しかない。それはいいとしても、ここでアンケートだけ出すと唐突である。もう一つ気になるのは、上の市町へのアンケートもそうだが、書き方がざっくりとし過ぎて、意見の中身がよく分からない。もう少し主語・述語を入れて書かないといけない。
- \* 私の近くでは、この会場ぐらいの部屋を改造して、4つくらい椅子を並べて、机を1つ置いて、印刷機とコーヒーを淹れる機械を置いている所がある。何に使っているかと言

うと、紙代だけで印刷ができて、コーヒーを100円で飲める。責任者の自治会長は毎日行かないといけない。そういうところが多々ある。あれは失敗ではないか。

\*活性化して、うまくいっているところもある。

\*参考資料5に、アンケートをもう少し丁寧にまとめたものがある。(事務局)

\*県民交流広場のアンケートが「参画と協働」に関する意見のところに入っているが、ここだけ浮いている。

\*むしろ今、都市では、空いている家屋や商店街などがある。その利用の方法を考えたり、それを活用する人をつくったりしたほうが、先行きは見えると思う。

\*もう済んだものだから仕方がないところもある。ただ折角アンケートをしたのだったら、むしろⅡ1の「ふるさとづくり活動の支援」のあたりで、県民交流広場を紹介して、課題をまとめたほうがいいのではないか。単なるアンケートとして、こんな意見がありましたというだけでは勿体ない。この半ページでまとめるのなら、もう少しきちっと書くべきだ。アンケートを踏まえて、こういう現状で、こういう展望だ、という形でまとめたほうがまだ読めると思う。

\*地域性があると思う。県民交流広場事業の開始時に、稲美町には公民館や会場がなかった。それで学校の空き教室を使い成功したようだ。でも最終的には、先導役の自治会長さんが、非常にご負担になったそうだ。そもそも、まちも村も、公民館など寄り集まる所が充実しているところが多い。だからその上で施設を整備しても、結局は無理に人を寄せるという形になってしまうことがほとんどだ。むしろ、何もない所では成功する。しかし今の時代、さっき申し上げたような年代の方でないと皆忙しい。女の人も家事だけをしている人も少ない。60歳ぐらいまでの人は、利用すること自体が難しい。従って先ほど申し上げたように、これからの時代に合わせた絵を描いてもらわないといけない。絵を描いたはいいが、皆が年を取ってしまい、それに対応できないということになると、どうしようもなくなってしまう。

\*年次報告には、いま言われたことをそれなりに反映すればよい。これからのコミュニティをどうするかという話は、県民生活審議会全体でしっかり議論せねばならない。

\*この間の部会の時にも、もっと危機感を持つべきだというご意見をいただいた。県民生活審議会では、先ほどのご指摘と真正面から向き合わないといけないと思っている。県民交流広場アンケートの関係は、これまで参画と協働の手法を用いて実施してきたことを振り返る形になっている。この結果を踏まえて、今後につなげたいという思いもある。確かにⅡ1のところに入れてもいいのかもしれないが、年次報告として「昨年やったことはこれだ」という形になりにくい部分があるので、できれば今のページのところでもう少しきっちり書き込みたい。(事務局)

\*16ページの下のところは、あってもなくてもどちらでもいいと思っている。

\*そのあたりの関係は、ボランティア条例の基本方針などをサーベイしているところであり、今の進捗状況を書いてもいいのだが、それがまだ整理されていない中で、こういうアンケート調査があったからこれを出した。絶対にこれでなくてはならないという話ではない。先生方のご意見に沿うように再考するということでよろしいか。

- \* 県民交流広場の活動の具体的な成果として「充実した活動拠点が整備できた」「活動の参加者が増えた」とあるが、自治会はどうなのか。自治会がそもそもの活動拠点であり、そのほぼ全員が参加者ではないか。新しい所は知らないが、古い所はほぼ全部自治会の会員だ。婦人会は抜けている所がたくさんあるが、自治会はほぼ全地域にある。やはりここで自治会を立てて、自治会と一緒に、協働してやっていく旨の表現をしたほうがいい。この文言だけでは、自治会が全く見えない。もっと自治会や各種団体を生かして参画と協働を進めるといような表現をするべきではないかと思う。これだけを見ていると、特別に県民をかき集めて、自分たちだけでやっているように見える。
- \* 県民交流広場事業は、震災の後の地域づくり活動応援事業などから、ずっと連綿と続いている事業だ。その展開をはっきり整理されるとその経緯が分かると思うが、最後の部分だけが県民交流広場という形で出てきている。他にも、県民局単位でお金を出して自由に使ってもらう事業などがある。だからこれだけ書くのは、難しいのかもしれない。
- \* これだけの紙面ではなかなか書き切れない。ただ、県民交流広場は地域の中での助け合いや、そういうものが当然これから必要になってくるので、どんな形で入れるか、ここで入れるのか含めて検討したい。（事務局）
- \* どこで入れるかはいいとして、「自治会その他各種団体と連携して」というその一言があれば済むことだ。
- \* 広場の振り返りはどこかでやるだろう。これでは中途半端ではないか。
- \* 最初から知っている者からすれば、なぜ今更という気がするが、そうでない人にとっては、これだけポツンと出てきたら戸惑うかもしれない。
- \* でも今更という気はしない。私の所では、あまり浸透しなかった。なぜ浸透しなかったかということ、そういう文言が入っていないからだ。自分たちのことではないという意識がある。あなたがた一人ひとりが当事者だ、ということを行うためには、自治会や各種団体があり、ということを入れておけば、自分たちのことだと認識してくれる。自分たちのことだと認識してもらえなかったら、どれだけいいことを書いても意味がない。
- \* 16 ページはこれだけ載せるかどうか。
- \* 特にこれだけ取り上げて載せる必要はないのではないかと思う。（事務局）
- \* 一つの切り口だから、私はこれでいいとは思う。ただ後ろにパーセンテージくらい入れたらどうか。
- \* 地域で様々な交流活動をしているという情報は、そこではなく、課題だけは次のページの「今後の推進に向けて」のあたりで扱う。（事務局）
- \* 16 ページのあたりは参考資料5をもう少し活用して、味気ないものでなくしたい。
- \* 文章として丁寧に表現したら読めるのではないか。

### 〔ボランティア活動について〕

- \* 調査ということでは、ボランティア活動の基本方針に関する調査をまとめられているという話もあるようだが、説明いただけるか。
- \* 先ほどの参画と協働の条例に基づく指針と併せて、県民ボランティア条例に基づく施策

の推進に関する基本方針のほうも検討を進める。これまで両方針があまりつながっていなかったが、よく似た内容なので時期も併せて検討したい。また、阪神淡路から20年間のボランティア活動については、調査を行っている最中だ。それも併せて27年度の年度末に、参画協働条例の指針と併せて、改定時にこちらにお諮りしたい。（事務局）

\* ボランティアという文言は要らないのではないか。報告書のタイトルに「みんなが主役 “ふるさと兵庫”」とあるように、みんなが主役であり、みんなが助け合わねばならない。ボランティアという言葉は、ここにあまり相応しくないと思う。

\* 確かに、ボランティアがもう日常生活の一部になっているということもある。（事務局）

\* ボランティアという文言については、ボランティア条例の基本方針というのがあり、その見直しを一度もしていないから、見直したらどうかという話になり、その作業が進みつつあるというだけの話だ。ボランティア条例があるからボランティアという言葉を使っているだけである。それはもうあるから仕方がない。変えたほうがよい、という意見が多ければ変わるかと思う。

\* ボランティア、ボランティアには、好きな人がしていることというイメージがある。そうではなく、これからは皆が助け合わないといけない時代だ。もうボランティアという言葉は要らないと思う。

#### 〔地域活動について〕

\* 今後の課題について、高齢化や固定化、人材不足などが16ページのアンケート結果の中に出ているが、「今後の推進に向けて」の中にそれを受けた文言を入れておかねばならない。結果が出ているのに何もやらないのかという話になる。私どももまちづくりをやっているが、神戸市のふれあいのまちづくり協議会の一つで、県民交流広場事業を受けている所がある。そこは高齢化が進んで後継者がいなくなり、その解決方法について会合を開き、地域の課題を挙げて、対応策を考えた。皆さんから聞いた意見をまとめて、では具体的にどれを選ぶかと言ったら、結局、既にやっていることだった。でも、やってみて上手くいかなかった。それで「我々の尻を叩きに來たのか」みたいに言われた。ただ、もう今のメンバーだけで継続していくのは限界が来ている。

\* 西神の新しいまちや、神戸などと比べて、東播・西播の状況は違う。完全な農家は別だ。但馬・丹波では高齢者ばかりになり、5軒のうち1軒しか田んぼができない所もあると聞く。しかし高砂にしても、加古川にしても、全て大型店に客を取られて、商店街はみんなシャッター街だ。大型店があったとしても、高齢者はなかなか行けない。歩くには遠く、自転車や車にも乗れない。そこで、そのシャッター街、元のまちの商店を高齢者のために活用すべきでないか。そういうまちづくりのことも考えていかななくては行けない。高齢者は施設にしか行けないという生活状態になっている。

\* さきほど言った事例でも、今やっている人たちは続けたい。でも、今のボリュームは大変でやれない。若い人も手伝ってくれない。その中での結論は、とにかく無理をせず、縮小してもいいということだ。皆さんが続けられるキャパにまで縮小して、皆さん自身が生き生きとやりがいがあって活動できるような状態に戻す。あれもこれもやらないと、



というところからいちど逃れましょう、ということはお話した。

- \* 私は、ボランティアという言葉は古いと思う。高齢社会になってくると、普通の人が、お互いのために生活のしよい社会をつくるしかない。自分自身が年老いてくると痛切に感じる。半年前にできたことができなくなってくる。最近よく見聞きするのだが、1人あるいは夫婦2人で、コンビニでおにぎりを買ってきて、おかずはインスタントの味噌汁を飲んでいる。それでお医者さんに検診に行ったら、「栄養失調です」と言われたという。そういう人もこれからどんどん増えてくると思う。だから、今まで描いてきた絵がそのまま通るかは分からない。65歳以上80歳くらいまでの人がどっと増える。その人たちの生活を維持するために、どうしたらいいか考えないといけない。難しいが、これが一番大きな課題だと思う。どなたもみんな健全で、何でもできる健康な方だということ支援指針を組んでしまっていたら、有名無実になってしまうと思う。

#### 〔各種団体の参加について〕

- \* 「各種団体」という文言を入れておくべきだ。何かをするにあたって、各種団体に声を掛けないと成立しない。参画と協働と言っても、責任を全うしてくれない。「各種団体と始めとする県民総参加」というふうな形で書くべき。
- \* 「個人及び各種団体」とか。それは最後のところで書くか。
- \* そういうことを一言入れておいたらいい。

#### 〔まとめ〕

- \* 今日お寄せいただいたご意見に沿って、事務局でもう少し修正する。私にも相談してもらって、あとはお任せいただくということでよろしいか。
- \* それでお任せする。
- \* 様々なご意見をいただき、ありがたく思う。ご意見を踏まえて修正し、報告したい。また今後の県民生活審議会についても、危機感を持って議論をしていかねばならないと思っているので、引き続きよろしくお願ひしたい。（事務局）